

そうさく
惣作遺跡

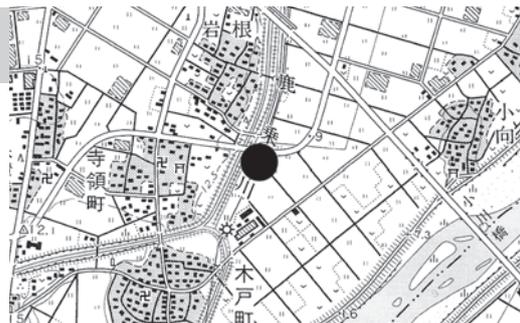
所在地 安城市木戸町
(北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒)

調査理由 中小河川改良事業(鹿乗川)

調査期間 平成20年8月～平成20年12月

調査面積 1,200㎡

担当者 鈴木正貴・成瀬友弘



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は愛知県建設部河川課による鹿乗川河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年9月から平成20年12月にかけて実施された。調査面積は1,200㎡で、平成16年度に調査した区域の河川側(西側)に相当する部分である。

立地と環境 惣作遺跡は安城市木戸町の鹿乗川左岸に所在する。矢作川などによって形成された自然堤防およびその後背湿地に立地しており、標高は約7mを測る。遺跡の西側は現鹿乗川を挟んで碧海台地が広がっており、南西方向の台地上には奈良時代に創建されたと推定される寺領廃寺が存在する。

調査の概要 今回の調査では、弥生時代から江戸時代までの様々な遺構や遺物が確認された。これらは弥生～古墳時代、奈良～平安時代、江戸時代の3期に大別することができる。

弥生時代中期 ほぼ調査区全体で弥生時代中期の南北に流れる河川跡が確認され、河川跡に堆積した大量の粗砂の中から古井式に属する太頸壺などの弥生土器が多く出土した。C区では河川埋積後に構築された方形周溝墓の一部と思われる溝が検出され、溝内には完形に近い弥生土器が2個体出土した。さらにその上位には竪穴建物跡が展開していた。これらの遺構は隣接する04F区で確認された弥生時代中期から古墳時代初期の居住域につながるものと考えられる。

古墳時代前期 古墳時代前期では、A区とB区の境界部分で蛇行して流れる河川跡(003NR)が存在し、その南岸から多量の土器と木製品が出土した。土器は小型の壺や器台、赤彩の壺や高杯など完形に近いものが多く、概ね廻間Ⅱ式併行期に属している。木製品には白や斧の柄など多様なものがあり、一部のみを加工した未完成品のような木材が多い。なかでも団扇形木製品は非常に精良な作りであり、東海地方では荒尾南遺跡について2例目のものである。

奈良時代～平安時代 A区では上面の遺構として水田跡が確認され、その下面では掘立柱建物跡・井戸状遺構・溝群などが検出された。また、A区とB区の境界部分では003NRが引き続き流れており、B区では竪穴住居跡が1棟確認されたが、C区では特に遺構は発見するには至らなかった。水田跡は一区画が約5m×約8m前後の規模を持つ小区画水田である。畦畔が確認されたのみで水路などの諸施設は不明である。作土などからイネのプラントオパールが検出されたが、その数量は少なく、水田耕作は短期間で終わったものと思われる。

水田跡の下位には掘立柱建物跡を構成する柱穴群が展開していた。明瞭に復元できる掘立柱建物跡には1間×3間のものと2間×3間のものがあり、この両者はほぼ正方位を向いていた。さらに柱穴群に切られる形で平行する溝群が確認されており、これらは畑跡であったと想定される。

003NR北岸の平安時代の堆積層からは須恵器や灰釉陶器、木製品などが若干量出土した。木製品の中には木簡が折れた状態で1点出土しており、共伴する灰釉陶器から時期は

10世紀頃に位置づけられる。木簡は、長さ57.3cm、幅3.2cm、厚さ0.7cmを測る板目板材で、孔が4個並んでいる。積文は、現状では暫定的に「道大巻得得麻呂得□□大□□□里(カ)美□□里(カ)」

「大 大 本 本本」

と読めているが、さらに検討が必要である。文言からみて、習書木簡か何らかのまじないに使用されたものである可能性を指摘できる。三河地方の古代木簡は、下懸遺跡例と平成16年度調査で出土した惣作遺跡例の2点があり、今回は3例目となる。

江戸時代 B区で江戸時代から近代の水路と不定形な大型の落ち込み、C区では不定形な大型の落ち込みと南北に流れる河川跡などが確認された。河川跡から下駄などの木製品が出土している。中世以降は人々が住んだ形跡はなく、河川や耕作地が広がっていたと考えられる。

まとめ 今回の調査では、古墳時代前期の遺物群・木簡・水田遺構の検出の3つの成果が特筆される。古墳時代については、これまでの惣作遺跡では廻間Ⅱ式併行期の遺構・遺物が発見されておらず、河川に遺物を廃棄した人々がどこに居住していたかが疑問となる。現状では沖積地に広がる微高地の上部が削平されて古墳時代前期の集落が残存していない可能性を提示しておきたい。木簡は三河地方の古代木簡では3例目となる発見で、いずれも鹿乗川流域の安城市南部で出土したものである。寺領廃寺などを含め木簡を産出する背景が今後問題となるだろう。水田遺構の検出については、これまで居住域や墓域の調査が中心となっていた鹿乗川流域の調査において、生産域を含めた流域全体の開発の問題にも視野を広げていく必要性を浮き彫りにしたと評価できよう。(鈴木正貴)



C区弥生時代の竪穴建物跡群(南西から)



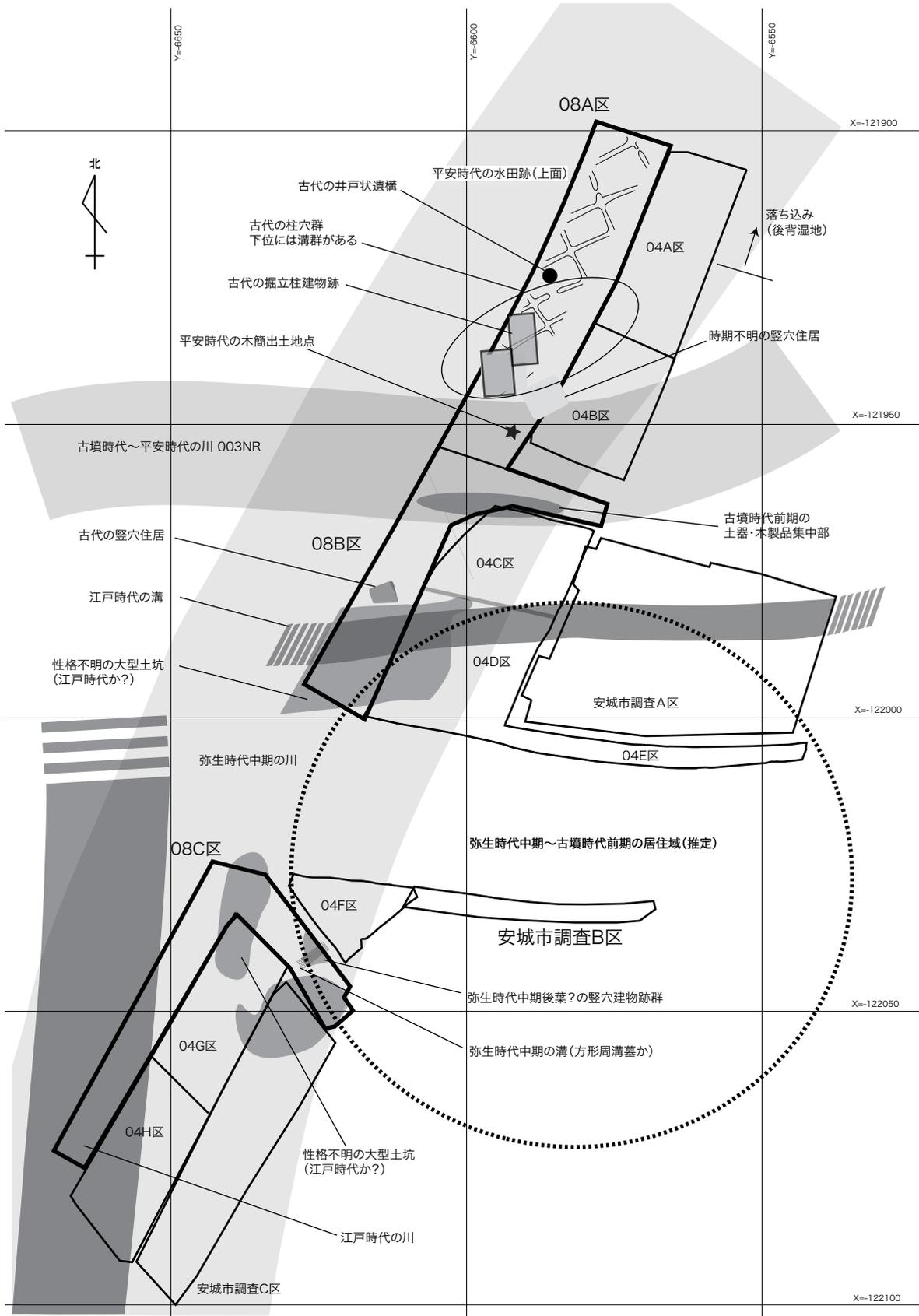
C区弥生時代の竪穴建物跡069SB遺物出土状態(北西から)



B区003NR遺物出土状態(北西から)



B区003NR白出土状態(北から)



惣作遺跡主要遺構図(1:1,000)



B区003NR 団扇形木製品出土状態 (南から)



A区003NR 木筒出土状態 (南西から)



A区古代の柱穴群検出状態 (南から)



A区古代の掘立柱建物跡群 (北東から)



A区古代の水田跡検出状態 (南東から)



A区古代の水田跡の土層断面 (南から)



B区古代の竪穴建物跡007SB (東から)



C区江戸時代の河川跡遺物出土状態 (南から)